

2015年(平成27年)度卒業式・大学院学位記授与式 総長式辞

パラダイムシフトが求められる時代ー世界で最も“清貧”なリーダーからの問いー



心よりのお祝い

本日、理事、監事、各部局長、教職員の方々のご臨席のもと、2015年(平成27年)度卒業式・学位記授与式を挙行できましたことは、私ども大阪大学全構成員の喜びとするところです。

今日から人生の新たな一步を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士・博士課程修了生の皆さん、大阪大学を代表しまして心よりお祝いを申し上げます。この晴れの日を迎えるまでの皆さんの日々の研鑽とたゆまぬ努力を深く讃えます。

また、この日まで長きにわたり学生の皆さんの勉学と研究を支えてくださいましたご両親、ご家族の方々には、深甚なる敬意を表するとともに衷心よりお慶び申し上げます。

私は、大阪大学の第18代総長に昨年8月26日に就任いたしました。したがって、本日の式典は私が総長としての初めての春の卒業式・学位記授与式であり、このように皆さんに直接語りかける機会をもてること

は大変光栄であり、嬉しい限りです。

皆さんを支える四つの力:「教養・デザイン力・国際性・コミュニケーション力」

大阪大学が2004年(平成16年)度からの国立大学法人化を迎えるに当たり定めた教育目標があります。それは、判断の前提となる「教養」、豊かな構想力を支える「デザイン力」、そしてグローバル社会で活躍するための「国際性」を重視した人材育成をすることです。

さらに、「コミュニケーション力」についても、大阪大学が全国の大学に先駆けその重要性を提起し、本学の学部学生、大学院生がその力を涵養することを目的としたセンターを設置しました。したがって、本学はこれら四つの力、能力を備えるための教育にいち早く注目し、独自性を長年発揮してきたと言っても過言ではありません。

そのような本学の教育方針のもとで過ごされた皆さんは、「教養・デザイン力・国際性・コミュニケーション力」

を十分に備えておられることを確信しております。

今後、皆さん一人ひとりが本学で培ったこれら四つの力及び能力、さらに知恵と知識と技能を存分に発揮されることを心より願っております。そして、皆さんが、どのような分野に進もうとも世界中の国・地域で、その分野において周りの人々から信頼され、リーダーシップを発揮して、自国の将来はもちろんのこと、人類社会の発展と福祉の向上に大いに貢献して下さることを期待しております。

パラダイムシフトが要請される時代

さて、私の専門分野は情報科学です。情報通信分野の過去50年の技術革新を振り返りますと、他の分野ではあり得なかったような凄まじい変化がありました。

他の分野、例えば、交通関係については、新幹線一つをとってみても、1964年(昭和39年)開業以来、現在の速度は2倍にはなっていませんし、燃費がある程度向上したに過ぎません。ところが、情報通信分野では、1960年(昭和35年)からの半世紀の間に、ハードウェアおよびソフトウェア技術の発展に伴い、性能指標は100億倍程度、価格も10万分の1程度になり、コストパフォーマンスで1兆倍以上の変化が起きている、と言われております。

ただし、その技術革新が心や生活を真に豊かにしているかと問われると、すんなり肯定することは難しいところです。急激な技術革新について行くのが大変だ、というような声が往々にして聞かれます。さらに、現在の情報機器に本当に満足しているのか。それらの機器によって居心地の良い社会が構築されていると言えるのか。例えば、身近なこととして、電車の中でも多くの乗客がスマートフォンに脇目も振らずに没頭していることが良いことなのか。そのような問いが次々と発せられています。

さらに問題なのは、最新の情報機器が消費する電気エネルギーの問題です。神戸のポートアイランドには、国内で最も性能の高い「京」と名付けられたスーパーコンピュータがあります。このコンピュータは、フル稼働しますと淡路島全土の消費電力に匹敵する程の電気エネルギーを消費してしまわれています。

そうなりますと、省エネルギーで、しかも性能は高くなくても、例えば高齢者にとって本当に使い易く、日常生活を支えるに足る情報機器の研究開発へとパラダイ



ムシフトすることも重要なのではないかと、思えるようになってきます。

世界で最も“清貧”なリーダーからの問い:「幸せ」とは

そのようなことを思い当たるに至っていた私は、最近、ある衝撃的な書物に出会いました。それは、くさばよしみ(編)、中川学(絵)の「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」という絵本です。

南米・ウルグアイの大統領は、昨年2月末まで、ホセ・アルベルト・ムヒカ・コルダノという人物であり、現在、80歳を迎えられています。彼はその給与の大半を財団や政府のプログラムなどに寄附し、個人資産は友人から贈られた中古の自家用車のみ。大統領就任中も、大統領に与えられる豪華な邸宅は拒否し、郊外の妻所有の農場で公務の合間にトラクターに乗って畑仕事と養鶏をして暮らし、世界で最も“清貧”なリーダーとして知られていました。

彼の大統領就任中の2012年(平成24年)6月に、





ブラジルのリオデジャネイロで「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」が開催されました。その折に、ムヒカ大統領が「幸福」について語ったスピーチが話題になりました。私が目にした絵本の原案はそのスピーチだったのです。現在の地球環境の危機や貧困問題を議論する会議で、各国代表者の演説の後、登壇したムヒカ大統領は次のようなスピーチをしました。

今の文明は私たちが、便利なもの、より良いものを追求することで発展を遂げてきました。その結果、使い捨て、大量消費が当たり前になり、情け容赦ない競争に私たちは踊らされています。私たちは幸せになるためにこの地球に生まれて来た命だったはずなのに、肝心の私たちは、今幸せですか。皆さんの幸福の中身とは何ですか、とムヒカ大統領は問いかけています。「貧乏な人」とは、少ししか持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだと、彼は警告します。

人間の幸せとは、物を所有することではなく、命あるもの、愛を大切にすることと彼は定義しています。具体的には、人と人が幸せな関係を結ぶこと、子供を育てること、友人を持つこと、地球上に愛があること、と述べています。

ただし、それは原始時代の生活に戻ろうと提案しているのではなく、私たちの思い描く幸せの中身、私たち自身の生き方、生活スタイルを見直そうと呼びかけるスピーチでした。

まとめの言葉としてムヒカ大統領は言いました。「社会が発展することが、幸福を損なうものであってはならない。発展とは、人間の幸せに寄与するものでなくてはならない。」と。

皆さんの四つの力で議論の輪を

皆さんのなかには、これから企業や行政、あるいは民間の研究所やシンクタンクに活動の場を移す方もおられれば、さらに大学で研究を続ける方もおられるでしょ

う。そして、その活動の期間は、大阪大学で勉学に励まれた期間よりずっと長くなります。

そこで皆さんにお願いがあります。今後の人生のどのような時点においても、このムヒカ大統領の投げかけた問いを思い起こしたり、そして、身近な人と一緒に考えたり、意見交換を行なってほしいと思います。このようなことこそが本学が重要視している教養であり、コミュニケーション力であると考えます。違う視点から物事を見ること、異なる意見を取り入れて考え直してみること、自分の見解を全く違う考えの人にわかるように説明すること、そして、異質な立場や観点も真っ向から排除せずに理解しようと話し合ってみること。そういう人であってほしいと切に願います。

そのうえで、地球全体を持続可能なものにするためには、もはやパラダイムシフトの時代、つまり、従来、当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などを大きく変化させる時代を迎えているのではないかと私は考えています。皆さんが大阪大学で培った「教養」、「デザイン力」、「国際性」、「コミュニケーション力」を駆使して、これからの時代、自分たちの力で幸福な世の中に変えていく行動を起こしてくださることを願っております。

ここでもう一つ付け加えたいのは、皆さんの立ち位置です。今は、学生として、これから社会に出れば職業人として自分を捉えていると思います。しかし、同時に皆さんは家庭の中での立場も併せ持っているのです。つまり、息子や娘、夫や妻、さらに父や母のような立場にもなり得ます。そういう視点も持ち合わせて、幸福な世の中に変えていくのだ、他所の誰かではなく自分自身が変えていくのだ、という信念を強く持っていたきたいと思います。

いつまでも感謝の気持ちを

最後になりましたが、本日に至るまでに、家族、友人そして研究仲間、加えて皆さんを陰で支えてくださった大勢の方がいます。改めてその方々への感謝の念を思い起こしてください。そして、皆さん一人ひとりのこれからの人生が、健康と幸運に恵まれ、悔いのない生涯を送られることを祈りつつ、私の式辞といたします。皆さん、改めておめでとうございます。

2016年（平成28年）3月28日
大阪大学総長

西尾章治郎

学部生 3,398 名、大学院生 2,614 名が 大阪大学を卒業・修了

3月28日（月）、大阪城ホールで平成27年度卒業式・大学院学位記授与式を
挙行了しました。卒業・修了おめでとうございます。



OBの久坂部羊氏（作家・医師）の記念講話

